吉川の風

東広島市立吉川小学校
令和７年２月７日
No.23　校長　沖　秀治

Tangio tumas !!（ﾀﾝｷﾞｵ ﾄｩﾏｽ）

昨日，吉川小学校の理科室と南太平洋に浮かぶソロモン諸島をオンラインでつなぎ，特別授業を実施しました。直線距離にして約5,400km！ にもかかわらず，オンタイムでつながって授業ができるのですから，改めてすごい時代になったものだと感じます。

さて，今回の講師はJICAで企画調査員をされている太田さん。海外で働く魅力やソロモン諸島での生活の様子，そして本校の総合的な学習のテーマ（SDGs）に合わせ，地球温暖化による海面上昇やごみ問題等についても話していただきました。今回も私見ですが，お話を聞いて心に残った内容を紹介します。

（１）「自分は何が好きで，何ができて，何がしたいか考える」ことが大切

農業・建設業・教育・医療等々，日本にある職業のほとんどは，開発途上国への支援につながるといっても過言ではありません。また，開発途上国の人から見ると，日本人がもつ技術は優れているので，役立つこと，学びたいことがたくさんあります。得意なこと，好きなことを生かして世界のために貢献できる人になれるといいですね。自分の可能性を信じていろいろなことにチャレンジしてください。

農業

建設

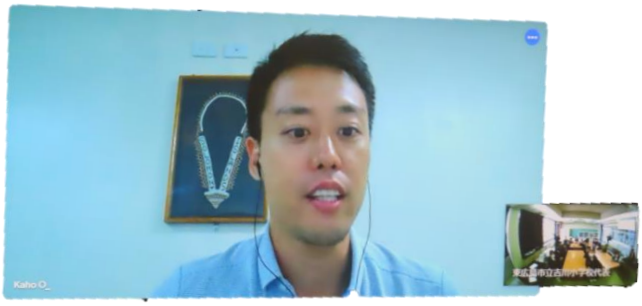
教育

医療

（２）違いを楽しむ

日本と海外では様々な違いがあります。一番の違いはもちろん言語。でもそれは現地に行ってからでも大丈夫！ 何とかなります。その他に，文化や価値観も日本とは全然違って最初は衝撃を受けました。でもそれが刺激的で，楽しく，ワクワクすることでもありました。

大変なこと，落ち込むこともありますが，その分，一生忘れられない経験をすることもできますし，それが仕事の「やりがい」や生きる「楽しさ」につながっているように思います。いろいろな「違い」を楽しめるようになるといいと思います。



【講師の太田さん】

画面越しに出会ったときの子ども達の第一声
「おっ！ イケメンじゃん！」 まあそうだけど…(^^;

ちなみに，今回の学校だよりのタイトル「Tangio tumas」は，ピジン語（ソロモン諸島の言語）で「ありがとう」という意味。太田さんは，吉川小学校の子ども達と出会い授業をする機会を得られたことに対する感謝の気持ちを，現地の言葉で表して授業を終えられました。

今回の授業をきっかけとして，子ども達が視野を広げ，自分の将来や生き方について考えてくれればいいなと思っています。

雪ニモマケズ　寒さニモマケズ

「今年一番の寒波到来」「大雪に注意」 天気予報を見るたびに聞こえてくるこの言葉。「雪が積もると通勤が大変だなぁ。」「寒いのはいやだなぁ。」と憂鬱になるのは大人だけ。

職員室から外を見ると，積もった雪を楽しむ子どもの姿が見られました。子ども達は元気いっぱいです。